

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2016-132883

(P2016-132883A)

(43) 公開日 平成28年7月25日(2016.7.25)

(51) Int.Cl.
E04H 1/02 (2006.01)F 1
E04H 1/02テーマコード (参考)
2E025

審査請求 未請求 請求項の数 9 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願2015-6656 (P2015-6656)
(22) 出願日 平成27年1月16日 (2015.1.16)(71) 出願人 390037154
大和ハウス工業株式会社
大阪府大阪市北区梅田3丁目3番5号
(74) 代理人 110001586
特許業務法人アイミー国際特許事務所
(72) 発明者 宮田 莉樹
大阪府大阪市北区梅田3丁目3番5号 大
和ハウス工業株式会社内
(72) 発明者 駒井 智弘
大阪府大阪市北区梅田3丁目3番5号 大
和ハウス工業株式会社内
Fターム(参考) 2E025 AA13 AA14 AA15

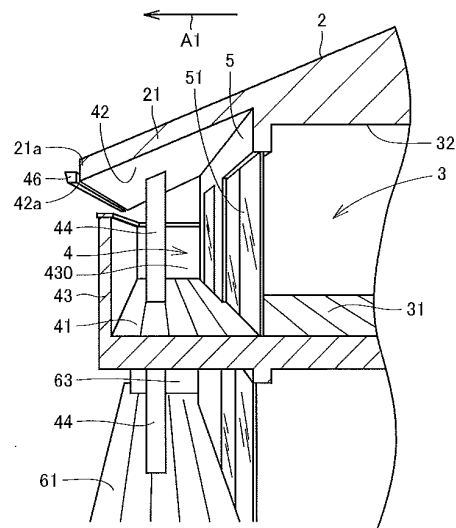
(54) 【発明の名称】 住宅

(57) 【要約】

【課題】外観の意匠性を向上させつつ、プライバシーの保護性を向上させることのできる住宅を提供すること。

【解決手段】仕切り壁(5)を介して屋内空間(3)と半屋外空間(4)とが隣接して設けられる住宅(1)である。半屋外空間(4)は、勾配屋根(2)の勾配に沿って形成される軒部(21)と、床部(41)と、床部(41)の外方側端部に設けられ、仕切り壁(5)よりも低い屋外立壁(43)と、屋内空間(3)と半屋外空間(4)とを仕切る仕切り壁(5)とで囲まれる。仕切り壁(5)には、開口部(51)が設けられる。軒部(2)は、その先端部(21a)と仕切り壁(5)との距離が、屋外立壁(4)と仕切り壁(5)との距離よりも長くなるように、屋外立壁(43)の外方に延出する。

【選択図】 図2



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

仕切り壁を介して屋内空間と半屋外空間とが隣接して設けられる住宅であって、
前記半屋外空間は、勾配屋根の勾配に沿って形成される軒部と、床部と、前記床部の外方側端部に設けられ、前記仕切り壁よりも低い屋外立壁と、前記屋内空間と前記半屋外空間とを仕切る前記仕切り壁とで囲まれ、

前記仕切り壁には、開口部が設けられ、

前記軒部は、その先端部と前記仕切り壁との距離が、前記屋外立壁と前記仕切り壁との距離よりも長くなるように、前記屋外立壁の外方に延出する、住宅。

【請求項 2】

前記屋外立壁の上端位置から前記軒部の裏面の先端位置までの垂直方向における距離は、280～1200mmである、請求項1に記載の住宅。

【請求項 3】

前記屋外立壁から前記軒部の先端部までの水平方向における突出距離は、280～760mmである、請求項1または2に記載の住宅。

【請求項 4】

前記屋外立壁の高さ寸法は、1200mm以上である、請求項1～3のいずれかに記載の住宅。

【請求項 5】

前記屋外立壁の下端部は、透光性部材で構成されている、請求項1～4のいずれかに記載の住宅。

【請求項 6】

前記屋内空間は床部を含み、前記半屋外空間の床部の高さと同様に前記屋内空間の床部の高さは同じである、請求項1～5のいずれかに記載の住宅。

【請求項 7】

前記半屋外空間の床部は、前記仕切り壁に隣接し、座面となる第1の床部と、当該第1の床部に隣接し、前記第1の床部よりも高さの低い第2の床部とを有する、請求項1～5のいずれかに記載の住宅。

【請求項 8】

前記第1の床部の高さは、前記屋内空間の床部の高さと同様に略同一である、請求項7に記載の住宅。

【請求項 9】

前記半屋外空間は、上階にあり、前記軒部は、下階から延びる化粧柱によって支持されている、請求項1～8のいずれかに記載の住宅。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

この発明は、半屋外空間を備えた住宅に関する。

【背景技術】**【0002】**

従来から、屋内につながる屋外空間として、半屋外空間が設けられた住宅が存在する。特開平11-62278号公報（特許文献1）には、このような住宅において、勾配屋根を切り欠いて半屋外空間としてのバルコニーを設けることが開示されている。

【先行技術文献】**【特許文献】****【0003】**

【特許文献1】特開平11-62278号公報

【発明の概要】**【発明が解決しようとする課題】****【0004】**

10

20

30

40

50

特許文献 1 のような住宅は、単に、採光性と通気性を重視した構造であり、プライバシーの保護性を意識した構造ではない。また、勾配屋根が切り欠かれているため、住宅の外観の意匠性も劣る。

【 0 0 0 5 】

本発明は、上記のような課題を解決するためになされたものであって、その目的は、外観の意匠性を向上させつつ、プライバシーの保護性を向上させることのできる住宅を提供することである。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 6 】

この目的のため本発明による住宅は、仕切り壁を介して屋内空間と半屋外空間とが隣接して設けられる住宅である。半屋外空間は、勾配屋根の勾配に沿って形成される軒部と、床部と、床部の外方側端部に設けられ、仕切り壁よりも低い屋外立壁と、屋内空間と半屋外空間とを仕切る仕切り壁とで囲まれている。仕切り壁には、開口部が設けられる。軒部は、その先端部と仕切り壁との距離が、屋外立壁と仕切り壁との距離よりも長くなるように、屋外立壁の外方に延出する。

10

【 0 0 0 7 】

好ましくは、屋外立壁の上端位置から軒部の裏面の先端位置までの垂直方向における距離は、280～1200mmである。

【 0 0 0 8 】

好ましくは、屋外立壁から軒天部の先端部までの水平方向における突出距離は、280～760mmである。

20

【 0 0 0 9 】

好ましくは、屋外立壁の高さ寸法は、1200mm以上である。

【 0 0 1 0 】

好ましくは、屋外立壁の下端部は、透光性部材で構成されている。

【 0 0 1 1 】

好ましくは、屋内空間は床部を含み、半屋外空間の床部の高さと屋内空間の床部の高さは同じである。

【 0 0 1 2 】

好ましくは、半屋外空間の床部は、仕切り壁に隣接し、座面となる第 1 の床部と、第 1 の床部に隣接し、第 1 の床部よりも高さの低い第 2 の床部とを有する。

30

【 0 0 1 3 】

好ましくは、第 1 の床部の高さは、屋内空間の床部の高さと略同一である。

【 0 0 1 4 】

好ましくは、半屋外空間は、上階にあり、軒天部は、下階から延びる化粧柱によって支持されている。

【発明の効果】

【 0 0 1 5 】

本発明によれば、外観の意匠性を向上させつつ、プライバシーの保護性を向上させることができる。

40

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 6 】

【図 1】本発明の実施の形態に係る住宅の外観を模式的に示す図である。

【図 2】本発明の実施の形態に係る住宅の構造例を模式的に示す断面図である。

【図 3】本発明の実施の形態に係る住宅の構造例を模式的に示す断面図である。

【図 4】本発明の実施の形態に係る住宅の他の構造例を模式的に示す断面図である。

【図 5】本発明の実施の形態に係る住宅の他の構造例を模式的に示す断面図である。

【発明を実施するための形態】

【 0 0 1 7 】

本発明の実施の形態について図面を参照しながら詳細に説明する。なお、図中同一また

50

は相当部分には同一符号を付してその説明は繰り返さない。

【0018】

本実施の形態に係る住宅は、勾配屋根を備えている。本実施の形態において勾配屋根とは、勾配を有する屋根であればよく、切妻屋根、寄棟屋根、片流れ屋根などを含む。

【0019】

まず、図1, 2を参照して、本実施の形態に係る住宅1の概要について説明する。

【0020】

本実施の形態に係る住宅1は、複数階建ての住宅、たとえば、2階建て住宅である。住宅1は、切妻屋根である勾配屋根2を備えている。本実施の形態に係る住宅1では、勾配屋根2の桁側11を正面としている。半屋外空間4は、たとえば上階(2階)に位置するバルコニーであり、正面の外壁の全幅にわたって形成される。なお、住宅1の正面の1階の外壁には、玄関7が設けられている。

10

【0021】

半屋外空間4の上方空間は、勾配屋根2の勾配に沿って形成される軒部21によって覆われている。すなわち、半屋外空間4の天井部は、いわゆる戻り軒天であり、勾配屋根2の勾配に沿った勾配を有する軒天部42である。軒天部42は、軒部21の裏面を構成する。なお、軒天部42の先端42aには、雨どい46が設けられている。

【0022】

半屋外空間4は、仕切り壁5を介して屋内空間3と隣接して設けられている。屋内空間3は、リビングルームやダイニングルームなどの居室空間に限られず、廊下などの非居室空間であってもよい。屋内空間3の天井部32は、勾配屋根2の小屋梁の部分に、水平に配置されていてもよい。屋内空間3の床部31の高さは、半屋外空間4の床部41の高さと略同一である。

20

【0023】

仕切り壁5には、開口部51が設けられる。開口部51は、たとえば、幅方向にスライド可能な複数の掃き出し窓により形成されている。開口部51は、仕切り壁5の全幅にわたって形成されていてもよいし、仕切り壁5の一部に形成されていてもよい。

【0024】

次に、半屋外空間4について詳細に説明する。以下、住宅1の正面側を前方という。また、水平面上において、前後方向と直交する方向を左右方向という。図2には、仕切り壁5を基準として外方側、すなわち、前方側を矢印A1で示している。

30

【0025】

半屋外空間4の床部41は、平坦であり、軒天部42と対向している。床部41の外方側端部(前方側端部)には、仕切り壁5よりも低い屋外立壁43が設けられる。屋外立壁43は、外壁と同様の壁体によって構成される。屋外立壁43は、仕切り壁5と対向している。そのため、半屋外空間4は、軒部21と床部41と屋外立壁43と仕切り壁5とに囲まれている。なお、本実施の形態では、床部41の左右方向端部にも、屋外立壁430がそれぞれ設けられている。

【0026】

ここで、半屋外空間4の上方に位置する軒部21は、屋外立壁43よりも前方(外方)に延出している。つまり、図3に示されるように、軒部21の先端部21aと仕切り壁5との距離D1が、屋外立壁43と仕切り壁5との距離D2よりも長くなる。距離D1は、軒部21のたとえば最先端の位置と仕切り壁5との距離であり、距離D2は、屋外立壁43の屋外(外方)側の面と仕切り壁5との距離である。したがって、軒部21は、距離D3だけ屋外立壁43から前方に突出している。具体的には、屋外立壁43から軒部21の先端部21a(たとえば、最先端の位置)までの水平方向における突出距離D3は、280~760mmであることが望ましい。なお、距離D1, D2を定める軒部21の先端部21aの位置は、先端部21aに限定されず、軒天部42の先端42aの位置であってもよい。

40

【0027】

50

半屋外空間 4 に配置される一般的な屋外立壁の高さ寸法は 1 1 0 0 mm 以下であるが、本実施の形態では、屋外立壁 4 3 の高さ寸法 H は、1 2 0 0 mm 以上、さらに望ましくは 1 8 0 0 mm 以上であり、一般的な腰壁よりも高い。そのため、屋外立壁 4 3 の上端 4 3 a の高さから、軒部 2 1 の先端部 2 1 a の高さまでの間隔が通常よりも小さい。具体的には、屋外立壁 4 3 の上端 4 3 a の位置から軒天部 4 2 の先端 4 2 a の位置までの垂直方向における距離 E 1 は、2 8 0 ~ 1 2 0 0 mm であることが望ましい。また、屋外立壁 4 3 の上端 4 3 a から直上の軒天部 4 2 までの垂直方向における距離（間隔）E 2 は、4 0 0 ~ 1 2 0 0 mm であることが望ましい。

【0028】

このような構造にすることで、図 1 に示すように、住宅 1 を正面から見た場合に、屋外立壁 4 3 と勾配屋根 2 との隙間が小さいので、外部から半屋外空間 4 内を視認することができず、2 階のプライバシーの保護性を高めることができる。また、屋外立壁 4 3 を一般的な腰壁よりも高く設計しているため、住宅 1 を正面から見た場合に、勾配屋根 2 が下がって見え、住宅 1 全体を低く抑えた落ち着き感のある印象を与えることができる。

【0029】

また、半屋外空間 4 につながる屋内空間 3 において、外気を感じられつつ、自分だけの空間のような「こもり感」を感じることができる。さらに、屋外立壁 4 3 と勾配屋根 2 の間は、隙間があいているため、屋内空間 3 または半屋外空間 4 において空を眺めることもできる。また、軒部 2 1 の先端部 2 1 a が屋外立壁 4 3 の外方に突出しているため、雨が半屋外空間 4 に入りにくい。

【0030】

なお、図 1 に示されるように、正面の 1 階の外壁 6 は、2 階の半屋外空間 4 の屋外立壁 4 3 よりも奥まった位置に設けられ、その左右両端に袖壁 6 3 が設けられていてもよい。この場合、屋外立壁 4 3 の前面（屋外側の面）と袖壁 6 3 の前端面は面一になっていることが望ましい。これにより、住宅 1 に重厚感のある印象を与えることができる。

【0031】

また、半屋外空間 4 の軒部 2 1 を支持する化粧柱 4 4 は、1 階から延びていてもよい。具体的には、化粧柱 4 4 は、2 階の床部 4 1 を貫通するように、軒天部 4 2 と 1 階の床部 6 1 との間に配置されている。化粧柱 4 4 は、半屋外空間 4 の左右方向の中間位置に配置されている。これにより、意匠性が向上する。

【0032】

図 4 は、住宅 1 の他の構造例を模式的に示す図である。図 4 に示すように、屋外立壁 4 3 のたとえば下端部 4 3 b は、透光性部材で構成されている透光部 4 5 が設けられる。透光部 4 5 は、典型的には、透明または半透明のガラスブロックである。透光部 4 5 は、屋外立壁 4 3 の全幅にわたって設けられていてもよいし、屋外立壁 4 3 の一部に設けられていてもよい。このような構造とされることで、透光部 4 5 を介して屋外立壁 4 3 の下端部から光を取り入れることができるため、屋外立壁 4 3 と勾配屋根 2 との間隔が狭くても、半屋外空間 4 が暗くなりすぎることを防止できる。

【0033】

なお、透光部 4 5 を開口とすることで、外気も取り入れ可能としてもよい。なお、下端部は、完全な端部を意味するのではなく、端部付近も含むものとする。

【0034】

さらに、軒部 2 1 にも部分的に透光部 4 5 を設けてもよい。あるいは、屋外立壁 4 3 の少なくとも一部をスクリーンフェンスのように形成し、複数の透光部 4 5 が設けられてもよい。

【0035】

図 5 は、住宅 1 のさらに他の構造例を模式的に示す断面図である。本実施の形態において、半屋外空間 4 の床部 4 1 は平坦であるとしたが、段差を形成してもよい。図 5 に示すように、半屋外空間 4 A は、仕切り壁 5 に隣接し、座面となる第 1 の床部 4 1 a と、第 1 の床部に隣接し、第 1 の床部 4 1 a よりも高さの低い第 2 の床部 4 1 b とを有している。

第１の床部４１ａの高さは、屋内空間３の床部３１の高さと略同一であってもよい。このような構造とされることで、第１の床部４１ａに屋外側を向いて腰を掛けることで、低い位置でくつろぐことができる。さらに、半屋外空間４Ａを有効活用するために、第２の床部４１ｂ上に机４７を配置してもよい。

【００３６】

本実施の形態の住宅１は、半屋外空間４が住宅１の正面側の２階外壁の全幅にわたり設けるとしたが、半屋外空間４は２階の一部分に形成されていてもよい。あるいは、半屋外空間４は、１階に設けられていてもよく、その場合、半屋外空間４は、たとえば、テラスであってもよい。

【００３７】

本実施の形態の住宅１では、勾配屋根２の桁側１１を正面としたが、これに限定されるものではない。一般的には、正面とは、玄関がある面や、道路に面している面をいう。

【００３８】

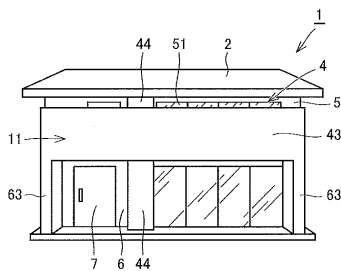
以上、図面を参照してこの発明の実施の形態を説明したが、この発明は、図示した実施の形態のものに限定されない。図示した実施の形態に対して、この発明と同一の範囲内において、あるいは均等の範囲内において、種々の修正や変形を加えることが可能である。

【符号の説明】

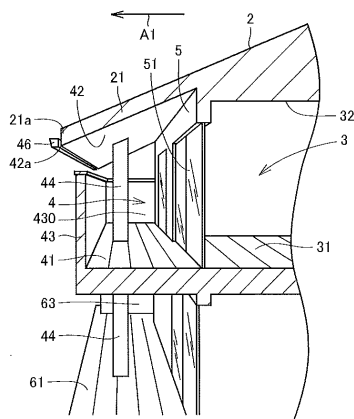
【００３９】

１ 住宅、２ 勾配屋根、３ 屋内空間、４ 半屋外空間、５ 仕切り壁、６ 外壁、
 ７ 玄関、１１ 桁側、２１ 軒部、２１ａ 先端部、３１ 床部、３２ 天井部、４１ 床部、４２ 軒天部、４２ａ 先端、４３ 屋外立壁、４４ 化粧柱、４５ 透光部、４
 ６ 雨どい、４７ 机、５１ 開口部、６１ 床部、６３ 袖壁。

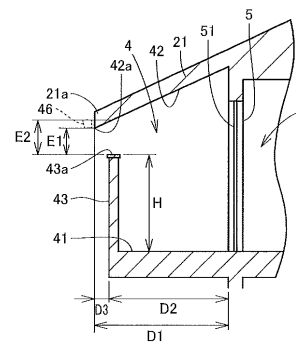
【図１】



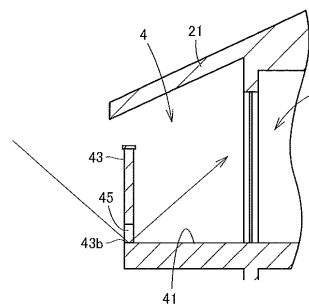
【図２】



【図３】



【図４】



【図 5】

